



再生医療実現拠点ネットワークプログラム

令和4年度予算額(案) 9,066百万円
(前年度予算額 9,066百万円)

背景・課題 / 令和4年度予算案のポイント (事業期間：平成25～令和4年度)

- 健康・医療戦略（令和2年3月閣議決定）に基づき、iPS細胞等を用いた革新的な再生医療・創薬をいち早く実現するための研究開発を推進。
- 再生・細胞医療・遺伝子治療開発協議会における検討を踏まえ、各分野のより一層の融合を図るため、既存公募課題の対象を広げるとともに、基礎・応用研究フェーズ及び非臨床研究フェーズにおける公募事業に統合・改組。疾患iPS細胞の利活用を促進するため、優先度の高い疾患において、付随情報が充実したiPS細胞バンクを整備。

① **iPS細胞研究中核拠点** 2,700百万円 (2,700百万円)

- ・ 臨床応用を見据えた安全性・標準化に関する研究等を実施し、再生医療用iPS細胞ストックを構築

② **疾患・組織別実用化研究拠点** 2,741百万円 (3,000百万円)

- ・ 疾患・組織別に再生医療の実現を目指す研究体制を構築

③ **技術開発個別課題** 391百万円 (883百万円)

- ・ 早期に臨床応用を目指す新たなシーズの育成

④ **幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム** 331百万円 (618百万円)

- ・ 若手を優先的に次世代の再生医療・創薬の実現に資する挑戦的な研究開発



⑤ **疾患特異的 iPS 細胞の利活用促進・難病研究加速プログラム** 1,388百万円 (1,158百万円)

- ・ 難病等の患者由来のiPS細胞を用いた疾患発症機構の解明、創薬研究等
- ・ ヒトiPS細胞バンクの活用促進のための基盤整備
- ・ 広く適応可能な新分化誘導法の開発やiPS研究実績豊富な研究者のマッチング
- ・ 優先度の高い疾患において付随情報が充実したiPS細胞を整備

⑥ **再生医療の実現化支援課題** 360百万円 (360百万円)

- ・ 知財戦略、規制対応、生命倫理上の問題等の支援体制を構築し、iPS細胞等の実用化を推進

⑦ **再生・細胞医療・遺伝子治療研究開発課題 (個別型・チーム型/基礎応用・非臨床)** 819百万円

- ・ 非臨床POC取得を目指す(非臨床)
- ・ 探索的な基礎研究及び動物モデルでの有効性の確認を目指す(基礎応用)

